

保育学生が選ぶ乳児の絵本

松本 亜香里・山野 栄子・市川 沙織

Picture books which students majoring in nursing choose

Akari MATSUMOTO, Eiko YAMANO and Saori ICHIKAWA

A lot of children, brought up in IT society, are absorbed in TV and video games. Young people who are weak at thinking, imagining by themselves or keeping company with others are increasing. There are calls for the importance of reading picture books to children who have been brought up in such surroundings since their infancy.

This study put special emphasis on babies. We carried out questionnaire to nursery school teachers, students majoring in nursing and their parents for the purpose of researching on what kind of picture books they actually chose and from which point of view they chose them. In addition, we took account of the interviews of some librarians. As a result of this research, the teachers' responses were similar to the students'. We wondered if it was because of the effects of nursing class and student teaching. In order to confirm this, we also carried out questionnaire to students majoring in other subjects.

From this study, we think it is important for students to enjoy reading a lot of picture books for themselves and to take interest in the pleasure of reading through class and student teaching. We will aim to have our students accumulate some experiences in reading picture books and get abilities of choosing appropriate books according to circumstances from various viewpoints.

1. はじめに

現代はIT社会の中で便利になった反面、コミュニケーション力や考える力が弱くなってきていると言われている。このような時代に育つ子どもたちは、テレビやゲームなどに夢中になったりと、大人社会の環境に大きく影響されている。人の話を集中して聞いたり、自分の気持ちを上手く表現し伝えたりする、いわゆる人とのコミュニケーションが苦手な子どもたちが増加してきている。一方で乳児期から心や言葉を豊かに育み、コミュニケーション力や考える力を培うために、絵本の読み聞かせの重要性が叫ばれており、出産後の“ブックスタート”の制度や、図書館では月に1～2回、乳幼児対象に読み聞かせの会を実施している。また、小学校では、朝の10分間読書の時間も設けられているところもある。

ところで、毎年たくさんの絵本が出版され、本屋の店先にも絵本コーナーが設けられている。そのような膨大な量の絵本の中で、どのような視点で選書しているのか、また、主に、どのような絵本を選んでいるのだろうか。そこで、親と保育者、保育を学ぶ学生、他専攻の学生、それぞれの立場で相違があるのか、アンケート調査を行い、乳児の絵本の選書ポイントについて考察する。

2. 方法

3回のアンケート調査を通して比較検討を行うものとする。

①第1回調査 平成21年10月、下記の対象者にアンケートを実施。

- ◇学生 67名 (保育を学ぶ短大1校、四大2校)
- ◇親 140名 (保育所4か所、子育て施設などを利用している保護者)
- ◇保育者 86名 (保育所4か所、子育て支援施設1か所で働いている保育士)

②第2回調査 本学保育学生1年生に対し、平成23年6月と9月にアンケートを実施。

- ◇学生 55名 (実習参加者のみアンケートを実施)

③第3回調査 本学保育学生以外の学生(生活コミュニケーション学専攻、食物栄養学専攻)に対し、平成24年9月にアンケートを実施。

- ◇生活コミュニケーション学専攻1年 28名
- ◇生活コミュニケーション学専攻2年 22名
- ◇食物栄養学専攻1年 41名
- ◇食物栄養学専攻2年 37名

3. 結果考察

3・1. 選書ポイント

現在ゲーム世代の学生が入学してきている。そのような学生が、2年間の学習の後、保育現場で先生として子どもたちの前に立つ。前にも述べたが、乳幼児期の絵本体験は、人とのコミュニケーション力や感性を育む段階において重要な体験となり得る。その体験とは、純粋に絵本との出会いの中で考えたり感じたりして身につくもの、または読んでくれる人とかかわりの中で育まれていくものがあるだろう。

日本保育学会第63回大会では、保育者と乳幼児の保護者、保育学生に対して乳児の絵本に関するアンケート調査を行った。質問内容は「絵本を選ぶ時のポイントは何ですか。3つ挙げて下さい。」とし、回答は記入例を示した上で、自由記述式で依頼した。アンケート結果は類似したものを分類して集計した。その結果を「ベスト10」を挙げると表1のようになった。

[アンケート質問内容(保育者・学生・保護者共通 関連事項抜粋)]

- ・絵本を選ぶ時のポイントを3つ挙げて下さい
(例) 絵がはっきりしている、内容、値段など
- ・自分が幼少時に読んでもらって印象に残っている絵本は何ですか。それは、どういうところが印象に残ったと思いますか。可能であれば3つ挙げて下さい。また、題名を思い出せない場合は、内容を簡単に教えてください。
- ・乳児に読ませたい絵本を教えてください
 - ①各年齢で、可能であれば3冊挙げて下さい
 - ②次に、挙げていただいた中で、一番心に残った絵本を一番下の欄に記入し、その理由も教えてください。

表1 乳児への絵本の選書ポイント

学生 n=148				保育者 n=121				保護者 n=275			
順位	ポイント	票数	%	順位	ポイント	票数	%	順位	ポイント	票数	%
1	内容	41	27.7	1	内容	37	30.6	1	内容	78	28.4
2	絵	36	24.3	2	絵	30	24.8	2	絵	59	21.5
3	色	11	7.4	3	色	10	8.3	3	子どもの興味・関心	38	13.8
4	値段	10	6.8	4	発達	8	6.6	4	値段	29	10.5
5	分かりやすさ	8	5.4	5	値段 分かりやすさ	7	5.8	5	色	23	8.4
6	長さ 発達	7	4.7	7	長さ	6	5.0	6	キャラクター	12	4.4
8	季節 子どもの興味・関心	5	3.4	8	季節	5	4.1	7	動物・生き物・乗り物	10	3.6
10	言葉の量 字 仕掛け	3	2.0	8	子どもの興味・関心	5	4.1	8	字数・ページ数 親自身の好み	9	3.3
	目的 読みやすい 表紙	3	2.0	10	大きさ 目的	3	2.5	10	言葉(響き・繰り返し)	8	2.9

日本保育学会第63回大会研究論文集掲載資料

結果からみると、保育者・学生・保護者共に第1位は「内容」、第2位は「絵」であった。三者ともに、「内容・絵」をそれぞれ25%前後の人が選書ポイントに挙げている。親は、子どもが興味を持っているものや喜んでくれるもの、あるいは親自身の好みで選んでいる傾向がみられる。これは、親自身の幼少期の絵本体験が影響していると考えられる。自分が幼少期に絵本を読んでもらったり、自分で読んだ親は、子どもにも絵本を読んでいる傾向にある。しかし、その逆の場合は、何を読んで良いのか分からないという回答が目立った。このことから見ても、幼少期の読書体験は貴重なものと考えられる。また、保育者や学生が挙げていて保護者に挙がってこない項目として、「季節」「分かりやすさ」「目的」「発達」などがある。これは保育者も学生も絵本を楽しむだけでなく、教材として保育の中で目的をもって使用したいとの意図だと考えられる。そして、「値段」は3者とも4～5位に挙げているので、乳児に与える適切な絵本が手頃な価格で出版されることは重要であろう。

保育者や保護者の選書ポイントから、興味深いことに、学生と保育者は良く似たことを「選ぶポイント」として挙げている。それは、学生は少なからず現場の保育士からの学びや専門教科での学びの影響があると考えられる。またアンケートを書いた所が授業の後や学校という場であったので、“より模範的の回答を”という意識が働いたのかもしれない。前者の実習での学びが影響しているものなのか、日本保育学会第65回大会では、学生が実習を経験する前と後で同一の学生にアンケート調査を行った。この調査では、選ぶポイントを以下の選択肢から優先順に5つ回答することとした。

ア. 絵の雰囲気	イ. 絵の色使い	ウ. 絵のサイズ	エ. 話の内容	オ. 話の長さ	カ. 言葉の繰り返し
キ. 言葉のリズム	ク. 子どもの興味関心	ケ. 登場人物/キャラクター	コ. 発達	サ. しかけがある	シ. 自身の好み
ス. 作者	セ. 有名	ソ. 出版社	タ. 人からの勧め	チ. 文字の大きさ	ツ. 知育性
テ. 丈夫さ	ト. 安全性	ナ. 季節	ニ. 値段	ヌ. その他	

※「ヌ. その他」を選択した場合、その詳細を述べるものとする

表2 学生が絵本を選ぶ時に考慮するポイント（1～5番） 実習を経験する前後

1～5番に挙げられた総票数 n=55						
実習前			実習後			変動 票数
ポイント	票数	%	ポイント	票数	%	
話の内容	45	16.4	話の内容	44	16.0	-1
子どもの興味関心	40	14.5	発達	40	14.5	3
発達	37	13.5	子どもの興味関心	37	13.5	-3
絵の雰囲気	33	12.0	話の長さ	29	10.5	4
話の長さ	25	9.1	言葉のリズム	29	10.5	7
言葉のリズム	22	8.0	絵の雰囲気	27	9.8	-6
絵の色使い	14	5.1	季節	23	8.4	10
季節	13	4.7	絵の色使い	9	3.3	-5
しかけ	12	4.4	しかけ	7	2.5	-5
絵の大きさ	7	2.5	言葉の繰り返し 登場人物/キャラ	6	2.2	3
登場人物/キャラ	5	1.8	安全性 絵の大きさ 自分の好み	4	1.5	0
安全性 自分の好み 人からの勧め	4	1.5	知育性 文字の大きさ	3	1.1	0
言葉の繰り返し 文字の大きさ	3	1.1				
丈夫さ 知育性 値段 有名	1	0.4				

実習前と後では、どちらも「話の内容」が一位に挙げられている（表2）。「絵の雰囲気」は、実習前では上位に挙げられていたが、実習後では「リズム」や「話の長さ」がそれより上位に挙げられている。「リズム」は、微妙な間によって聞き手である子どもが言葉の持つ意味を考えたり、イメージをより膨らませ想像する力を育むことになるのではないかと考えられる。学生は、保育者が読み聞かせしている様子を客観的に見たり、自分が前に立って子どもたちに読み聞かせる体験をする中で、そのことに気づいたと思われる。

「話の長さ」が上位に挙げられるようになったのは、実習で実際に子どもに触れてみて、乳児の発達段階に合った長さがあることに気づいたからと考えられる。また、保育現場では活動と活動の間に教材として活用する場面が増えるからかもしれない。

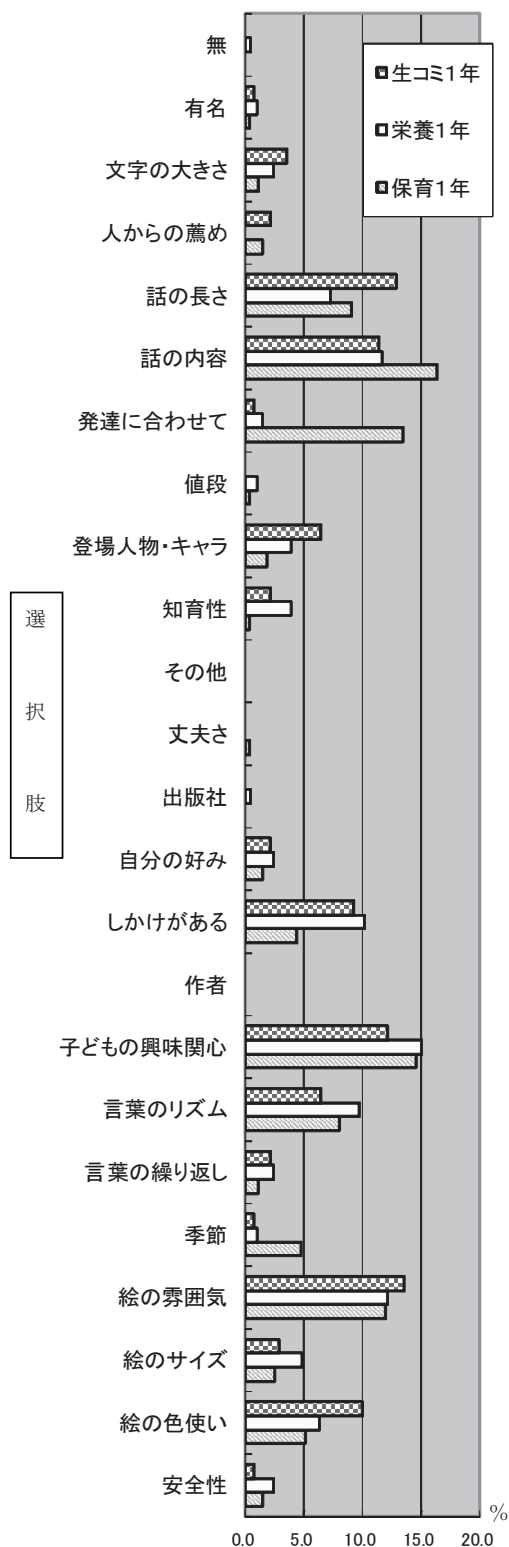


図1 絵本を選ぶ時のポイント（他専攻の学生との比較）

「季節」が実習後に上位に挙げられたのは、保育の現場では季節感が重要視されており、実習することにより、季節に関する活動が取り入れられていることに気づいたからと推測される。

「しかけ」の票数が減ったのは、しかけに頼らずにリズムや間など、子どもとの関わり方を実習先の保育者から見て学び、語り方によりコミュニケーションをとることに気づいたからだろう。また、乳児は感触を楽しむこともあり、壊れにくく、丈夫であることも考慮されるからか、乳児の保育現場にはあまり置かれていないということもあるだろう。

「人からの薦め」や「有名」が実習後で挙がらなくなったのは、保育現場での学びに加え、授業の中で様々なかたちで絵本に触れる機会や学生同士で絵本を読んだり聞いたりする体験をたくさん積む中で自分で選べるようになったものと考えられる。

保育とは、今、子どもが求めていることを捉え、それに応じた援助をし、発達を促すものである。実習前と後で、どちらも「話の内容」「発達に合わせて」「子どもの興味関心」が挙がっているのは、保育者志望の学生のため、従来から絵本に興味関心を持って様々な絵本に触れる機会があり、保育者に近い視点で絵本を捉えるからかもしれない。この点については、保育者志望学生以外の他専攻の学生にアンケートを実施し、調査を行った。その結果については、各項目で比較検討するため、棒グラフで表示する（図1）。

保育学生は、自分の好みでの選書は他専攻よりも少ない傾向にある。それは、現場の先生方が読んでいる絵本を選んだり、教材として選書をするのであろう。また、他専攻では「しかけがある」というポイントが上位に挙がっていたが、保育学生は重要視していない。それは、しかけに頼らずに子どものかかわりを通して絵本の内容を伝えようとするからと考えられる。

保育学生は実習だけではなく講義等でも子どもや保育について学んでいるためか、「季節」を挙げている。「季節」とは、例えば自然の変化や季節の行事などに合わせた選書である。また、保育学生の特徴として「発達に合わせて」というポイントが上位に挙がってきている。これは、乳児期は発達の個人差が大きく、自分で絵本の内容を解いていく力がまだ困難な時期であるため、読み手が選書をする時に目の前の子どもたちが、今何を求めている、何に興味を持っているのかを、発達や普段の子どもの姿を把握しながら選書していくことが大切だと考えているからであろう。

「絵のサイズ」や「絵の色使い」については、他専攻の学生は自分が教育を受けてきた環境や、短大に入学してから教員免許を取得するために学校へ実習に行くことから、各自席に着いて読み聞かせを聞くというイメージで、遠くの子どもにも見えるようにこの2点を挙げているのかもしれない。それに比べ、保育学生は保育者の周りに子どもが寄って絵本を囲むというイメージで、「絵のサイズや色使い」は選書ポイントに挙げたいものの、優先的には下位の方にあると考えられる。

また、今注目されている「知育性」であるが、保育学生はさほど重要視していない。これは、乳児に絵本を読む時、まずは楽しんだり面白さを感じて欲しいという願いから、知育を先に挙げてこないのかもしれない。

これらの細かな差はあるものの、全体としては似通っている結果であった。例えば「子どもの興味関心」や「言葉のリズム」、「絵の雰囲気」、「話の内容」など、重要視されているものはどの専攻も重なっていた。それは、保育学生だけでなく、他専攻も子どもとかかわる機会があり、将来もそのような職に就く可能性がある学生がほとんどである。だから、目の前の子どもの気持ちを含んで、絵本独特の「絵の雰囲気」を大切にしながら、「話の内容」や「言葉のリズム」の必要性も感じているのではないだろうか。

3・2. 乳児に読ませたい絵本

学生と保育者、保護者に対し、0・1・2歳に読ませたい、読み聞かせたい絵本を年齢別に自由記述式で記入してもらった。その結果は表3の通りである。

0歳児向けには、言葉を音として楽しめるものや、一緒にまねをして遊べるなど、人との愛着関係を築いていく大切な時期に重要な役割を果たす絵本が挙げられている。

1歳児向けには一緒に遊べるものに加えて、身近なものや生活に関するもの、言葉の繰り返しや響きが楽しめるものなどを学生や保育者は挙げており、発達を踏まえてより成長を促した願いの表れとも考えられる。

2歳児は3者とも第1位が「はらぺこあおむし」であった。2歳児に関していえば3者とも簡単な物語性のあるものが選ばれている。イメージが膨らみ創造する力が育ってきているからだろう。長く読み継がれている絵本には、内容・絵・子どもの興味関心の高さ・分かりやすさなどの選出ポイントが満たされている。

表3 乳児に読みたい絵本（学生・保育者・保護者）

0歳児に読みたい絵本								
保育者			学生			保護者		
順位	題名	出版社	順位	題目	出版社	順位	題目	出版社
1	いないいないばあ	童心社	1	ノントンシリーズ	偕成社	1	いないいないばあ	童心社
2	あかちゃんの遊び絵本シリーズ*	偕成社	2	びよーん	ポプラ社	2	あかちゃんの遊び絵本シリーズ*	偕成社
3	だるまさん（の・が・と）	ポロックス新社	3	いないいないばあ	偕成社	3	じゃあじゃあびりびり	偕成社
3	ノントンシリーズ	偕成社	3	じゃあじゃあびりびり	偕成社			
1歳児に読みたい絵本								
保育者			学生			保護者		
順位	題名	出版社	順位	題目	出版社	順位	題目	出版社
1	ねないこだれだ	福音館書店	1	もこもこもこ	文研出版	1	あかちゃんの遊び絵本シリーズ*	偕成社
2	ももんちゃんシリーズ	童心社	2	ねないこだれだ	福音館書店	2	ノントンシリーズ	偕成社
2	だるまさんが（の・が・と）	ポロックス新社	3	ももんちゃんシリーズ	童心社	3	はらぺこあおむし	偕成社
2歳児に読みたい絵本								
保育者			学生			保護者		
順位	題名	出版社	順位	題目	出版社	順位	題目	出版社
1	はらぺこあおむし	偕成社	1	はらぺこあおむし	偕成社	1	はらぺこあおむし	偕成社
2	ノントンシリーズ	偕成社	2	きんぎょがにげた	福音館書店	2	ノントンシリーズ	偕成社
3	おおきなかぶ	福音館書店	3	おおきなかぶ	福音館書店	3	うずらちゃんのかくれんぼ	福音館書店
3	ぐりとぐら	福音館書店	3	しろくまちゃんのほっとけーき	こぐま社	3	ぐりとぐら	福音館書店
3	ぞうくんのさんぽ	福音館書店	3	でんぐりでんぐり	あかね書房			
			3	ほーらねできたよ	主婦の友社			

日本保育学会第63回大会研究論文集掲載資料

表4 乳児に読みたい絵本(保育者志望学生実習前後)

0歳-票数多い順					
実習前			実習後		
題名	出版社	票数	題名	出版社	票数
いないいないばあ	童心社	21	いないいないばあ	童心社	23
いないいないばああそび	借成社	13	くつついた	こぐま社	10
もこもこもこ	文研出版	12	だるまさんが	プロンズ新社	10
てんてんてん	福音館書店	11	もこもこもこ	文研出版	10
くつついた	こぐま社	9	くだもの	福音館書店	9
もうねんね	童心社	9			
1歳-票数多い順					
実習前			実習後		
題名	出版社	票数	題名	出版社	票数
しろくまちゃんのほっとけーき	こぐま社	11	しろくまちゃんのほっとけーき	こぐま社	8
てんてんてん	福音館書店	11	ねないこだれだ	福音館書店	8
きんぎょがにげた	福音館書店	10	きんぎょがにげた	福音館書店	7
ばいばいまたね	アリス館	9	もこもこもこ	文研出版	7
もうねんね	童心社	9	おおきなかぶ	福音館書店	6
2歳-票数多い順					
実習前			実習後		
題名	出版社	票数	題名	出版社	票数
はらぺこあおむし	借成社	9	しろくまちゃんのほっとけーき	こぐま社	14
あんぱんまんといきまん	フレーベル館	8	はらぺこあおむし	借成社	11
さよならさんかく	こぐま社	7	ねないこだれだ	福音館書店	10
やさい	鈴木出版	7	おおきなかぶ	福音館書店	7
うんこ	鈴木出版	6	ぐりとぐら	福音館書店	6
ぐりとぐら	福音館書店	6	きんぎょがにげた	福音館書店	6

日本保育学会第 65 回大会発表資料

選書ポイントと同様、実習を経験する前と後では選書する絵本は変化するのか比較を行った。結果からは、前後比較では大差が見られなかった。上位のものは、発達や言葉のリズム、絵の雰囲気等重要視して選んだとみられるが、ここに挙がらなかった絵本は選書ポイントに関連していないように感じる。それは、ポイントでは変化があったものの、選書段階で具体的に絵本につなげられなかったと考えられる(表3・4)。

4. まとめ

本研究は、この月齢だからこの本が良いというものではない。絵本とは子どもが読んでも、大人が読んでも楽しいものである。例えば学生も好きな絵本として上位に挙げている「はらぺこあおむし」がある。この本の特色は、はっきりとした色合いだったり、たくさんの果物が出てくるところだったり、内容の展開などである。この本は、司書の方の意見や文献によると2歳児からの選書に挙がっているが、読み方や見せ方によっては0歳でも1歳でも、あるいは2歳以上でも十分に楽しむことができる。このように、読むのに好ましい年齢もあるが、本によっては、提示方法の工夫により、どの年齢でも長く楽しめることも学生に伝えていかなければならない。

アンケートでは選書ポイントを調査したが、選ぶポイントが大事とか、このポイントでなければならない、この絵本のこのポイントが良いと述べるものではない。学生が選書時に、その本にどのようなポイントが含まれるのかを自分なりに考え読むことで、相手の反応を感じ、共感しながらそれぞれの絵本の良さや伝えたいことを自分で考えられる力を養えるようにしていくことが目的である。また、その時々の子どもの姿や、保育的・教育的目的を考えながら柔軟に選書できる力も、今後絵本に触れる中で身につけていって欲しい。それには、一人ひとりの子どもと向き合う体験を積み重ねながら、理論を踏まえ、実践を深めていくことが求められる。さらに、読み継がれている絵本や新刊の絵本、枠に捕らわれることなく広い視野をもって選書していくことで、更なる絵本との出会いが生まれ、子どもへの読み聞かせの幅も広がることと想像される。

今回の調査を通して、学生が乳児への絵本を選ぶ視点や、実習での学びがあることが分かった。しかし、その学びが選書段階になると十分に活かされていないように感じる。それは、学生が知っている絵本に限りがあるからだろう。今後、ポイントに沿った選出をするためにも、日頃から興味や関心を持ち、たくさんの絵本に触れることが望ましいと考えられる。現に、絵本に関するアンケートや宿題を出すことで、学生が自ら図書館などに足を運んで調べる姿が多く見られるようになった。それぞれの絵本の魅力を考える上で、このような課題は望ましいと考える。それに加え、本学では、子育て教室や公立の子育て支援センターでも絵本の読み聞かせ体験ができ、授業内でもこのような体験ができるように工夫している。実際、学生自身が子どもの前や人前で読みきかせる経験を通して、子どもの反応や聞き手の反応を肌で感じ、選書の反省、読み方の反省などをしていく。絵本というのは、良い絵本を選ぶことだけではなく、読み手の心や読み方も重要になってくるからである。次なる課題は、経験したことを学生同士で話し合い、情報交換をしていくことである。それは、教員からではなく、学生同士が実際に読んでみて良かったことや失敗と感じたことを話し合うことで、共感や疑問が生まれ、共に試行錯誤しながら意欲や技術が向上していくことを目的とする。こういった機会を通して学生自身が絵本を読む楽しさを体験して欲しいと願う。

謝辞

アンケートにご協力いただいた、保育者、保護者、学生の皆様、またアンケート回収にご協力くださった教職員のみなさまに感謝いたします。

参考文献

- 1) 福岡貞子・磯沢淳子 2009 『保育者と学生・親のための乳児の絵本・保育課題絵本ガイド』 ミネルヴァ書房
- 2) 松居直 2003 『絵本のよろこび』 NHK 出版
- 3) 中村証子 1999 (1997) 『絵本はともだち』 福音館書店
- 4) 中村証子 2009 『絵本の本』 福音館書店
- 5) 林田哲治 2000 (1992) 『子どもが絵本と出あうとき 1』 解放出版社
- 6) 林田哲治 2001 (1995) 『子どもが絵本と出あうとき 2』 解放出版社
- 7) 日本児童文学者協会 2004 「いま、絵本はどうなっているのか」 『日本児童文学』 第 50 巻第 2 号、小峰書店

付記

本研究は、日本保育学会第 63 回大会から第 65 回大会まで 3 回にわたって発表したものに加筆修正をしたものである。なお、題目は以下の通りである。

- (1) 山野栄子・松本亜香里・市川沙織 「学生・保育者・お母さんが選ぶ乳児の絵本」 (日本保育学会第 63 回大会、2010 年 5 月)
- (2) 山野栄子・松本亜香里・市川沙織 「学生・保育者・お母さんが選ぶ乳児の絵本 (2)」 (日本保育学会第 64 回大会、2011 年 5 月)
- (3) 山野栄子・松本亜香里・市川沙織 「学生が選ぶ乳児の絵本」 (日本保育学会第 65 回大会、2012 年 5 月)